

## 第4次「北九州市子ども読書プラン」に係る全事業の進捗状況 【A:大変順調、B:順調、C:やや遅れ、D:遅れ】

方針	主要施策	取組内容	事業計画(目標)	R3年度～R6年度 取組実績	進捗状況		次期プランに向けた意見 (本取組の継続・廃止、新規事業の有無など)
I 家庭における読書活動の推進	①はじめての絵本事業の推進	母子健康手帳交付時に 絵本パックを贈ることで、早い時期から子どもが本とふれあうことの大切さを啓発し、親子のふれあいや家庭における子どもの読書を応援する。	母子健康手帳交付とあわせて、絵本パックを配布することで、高い配布率を維持する。 ※令和6年度からは生後4か月までの乳児への全戸訪問時に配布	新生児への絵本の配布率 99.0%以上	A	絵本パックの配布率は99.4～99.5%で推移しており、高い水準を保っている。	引き続き、家庭における子どもの読書活動を支援するため、本事業を継続していく。
	②保護者による読み聞かせの実施	「はじめての絵本事業」で配布した絵本を使って、家庭で保護者による子どもへの読み聞かせが行われ、乳幼児期に絵本を通して心のふれあいを生み出す。	・はじめての絵本を使った読み聞かせ会の開催及び読み聞かせ動画等の配信。 ・保護者向け読み聞かせ講座の開催 ※ 絵本パック配布後の絵本の活用状況についてアンケート調査を行い、家庭における読書活動の習慣化に向けて啓発を行う。	・毎年市民センターや幼稚園等で乳幼児の保護者向けに読み聞かせのための絵本の選び方、読み聞かせの実演等を実施 ※はじめての絵本事業の絵本パックの絵本を活用して読み聞かせを行った家庭:88.1%	B	はじめての絵本事業で配付された絵本を活用して、各家庭で保護者による子どもへの読み聞かせが行われている。	保護者や子どもたちの読書習慣を形成するため家庭における読書活動は有効な手立ての一つと考えており、引き続き事業を継続することが必要と考える。
	うちどく ③家読(ファミリー読書)の推進	家族で同じ本を読んだり感想を話し合ったりして、本を通じてコミュニケーションを図る「家読」の重要性を啓発するポスターの作成、配布を行う。	・夏の読書カード事業を通じた啓発 ・「家読」チラシの作成・配布を継続的に行う。	・夏の読書カードの「家読にチャレンジ」や読書の記録のページで啓発 ・「家読」チラシ、ポスターを作成・配布	B	・全市の幼児・児童・生徒を対象に「夏の読書カード」を配布し「家読」の啓発を行うことができた。 ・「家読」ポスターを作成し、市内全ての学校及び市立図書館、市民センター、子育て関連施設に掲示を依頼して啓発を行った。 ・令和5年度まで小・中・特別支援学校に入学する全ての新1年生児童生徒に、新たなチラシを作成し、配布した。	保護者や子どもたちの読書習慣を形成するため家庭における読書活動は有効な手立ての一つと考えており、引き続き事業を継続することが必要と考える。
	④読書の日、読書カードの実践	秋の読書週間に合わせ、北九州市独自の「北九州市子ども読書の日」を新設するとともに、毎月23日の読書の日、読書カードの実施などを通じ、家庭等での読書を推進する。	・北九州市子ども読書の日の新設及び市立図書館での各種イベントの実施 ・市内の保育所、幼稚園、小中特別支援学校の幼児、児童生徒に「夏の読書カード」を配布する。	・市独自の子ども読書の日には、各市立図書館がそれぞれ趣向を凝らしたイベントを実施。 ・市内全ての保育所、幼稚園、小中特別支援学校の幼児、児童生徒に「夏の読書カード」を配布。	A	・北九州市子ども読書の日には、各市立図書館がそれぞれ趣向を凝らしたイベントを実施し、普段図書館に足を運ばない子どもや保護者の来館につながっている。 ・全市の幼児・児童・生徒を対象に「夏の読書カード」を学校・園を通じて配布し、家庭等での読書を推進することができた。	・普段図書館に足を運ばない子どもや保護者の来館を促すため、「北九州市子ども読書の日」のイベント実施は継続的に行う。 ・家庭等での読書を推進するため、読書カードの配布は継続的に行う。
			・読書の日、北九州市子ども読書の日各学校への周知及び取組に関する指導助言を行う。	・北九州市子ども読書の日前後2週間に各学校で読書に関する取組を行うように周知する。 ・研修会やグループ会議で、読書推進活動の好事例を紹介したり、各学校を視察して指導助言を行ったりする。	B	・北九州市子ども読書の日前後2週間に読書に関する取組を行うように周知することで、各学校が工夫を凝らした取組を行い、読書に親しみ、読書を楽しむ児童生徒の育成につながっている。	・各学校で実施した取組後のアンケートを活用して、より多くの好事例を集め、研修等で周知することで、更なる読書推進を図っていく。
			・幼稚園・保育所等で、毎月23日の読書の日及び北九州市子ども読書の日読書に関する取組を実施する。	・各園において、絵本の読み聞かせや貸出等を実施	B	・各園において、絵本の読み聞かせや貸出等が行われ、家庭での読み聞かせの機会や日常的に絵本と触れ合うきっかけづくりができた。	・幼児期に、絵本等に触れ合い親しみ環境づくりが、就学後の読書活動につながっていくことから、本取組は、継続が望ましいと考える。
⑤電子機器、動画等を活用した読書のきっかけづくり	タブレットやスマートフォン等の電子機器で本を読むことができる電子書籍の貸出など、家庭での読書のきっかけづくりを行う。	・コロナ禍の子どもたちの学習や読書の機会を確保するため、令和3年度に「北九州市子ども電子図書館」を開館し、24時間どこからでも読書ができる環境を整備する。 ・初めての絵本等を使った読み聞かせ動画等の配信	・市立小・中・特別支援学校の児童生徒に電子図書館利用のためのID及びパスワードを発行し、1人1台のタブレット端末を使い活用してもらった。	B	現在の利用登録者数は約99,000人。一月の平均利用回数は800回～900回で落ち着いている。人気がある書籍は数十人が予約待ちの状態であり、一定数の利用は常に見込まれる。大人向けの図書も充実し、児童生徒以外の一般の方の登録も着実に増えている。	図書館に行くことができない場合でも、24時間どこからでも本が借りられるため、読書バリアフリーの観点からも、今後も電子図書館の運営と蔵書の充実引き続き取り組んでいく。	